

診療最前線

神経内科



神経内科部長
酒井 寿明

神経内科では、てんかん、パーキンソン病など脳の病氣、アルツハイマー病などの認知症、膠原病などの全身の病氣を診断し、治療を行っています。

他の病氣と違う点は、一つの症状、一つの検査だけでは診断しにくいことや、同じ症状でも他の症状が違っていると全く違う診断になること、原因あるいは治療法が不明の病氣があることです。しかし、京都大学の山中先生を中心に研究されているiPS細胞による治療方法や様々な検査方法は日々進歩しており、将来の治療が最も期待されている分野です。

【当科の特徴】

救急告示病院として、急性一酸化炭素中毒や髄膜炎・脳炎など様々な神経疾患及びそれに伴う合併症に対して、入院による点滴治療、附属若穂病院と連携したりハビリテーションを行います。また、長野県内でも数台しかない高気圧酸素治療装置による治療を行っています。適応疾患は多く、内科では急性一酸化炭素中毒のほか、外科では腸閉塞、耳鼻咽喉科では突発性難聴など、



附属若穂病院と連携したリハビリテーション

様々な病氣の治療で使用しています。

神経内科常勤医がいる総合病院として周辺地域から積極的に救急車を受け入れており、高度な救急治療を要する場合は近隣医療機関と連携を取ります。



高気圧酸素治療の様子

【病氣の治療について】

＜髄膜炎・脳炎など＞ 発熱、頭痛などを症状とする髄膜炎、脳炎などの急性の感染症に対して早期に検査を行います。腰椎穿刺や頭部CT検査、MRI検査などを即日、必要であれば夜間にも行います。その結果次第で、抗生

剤などの適切な治療をすぐ開始しています。

＜パーキンソン病＞ 手の震え、足が出にくい、動作が鈍いなどを主な症状とする病氣です。飲み薬が中心ですが、最近では、お腹に開けた小さな穴から十二指腸、空腸に管で持続的に薬（デュオドーパ®）を流す治療が始まっています。また、脳に電気刺激を送るDBSという治療を行うため信州大学へ紹介することもあります。

＜眼瞼痙攣＞ 皆さんは目の周りの筋肉がピクピクすることはありませんか。疲労や寝不足があるときには誰にでも起こることで、ずっと続く場合は眼瞼痙攣といわれます。内服薬のほか、美容形成でも使用するボトックス注射で治療します。

＜筋萎縮性側索硬化症＞ 代表的な神経難病です。体を酸化させて炎症を起こす有害物質（フリーラジカル）が原因の一つと考えられています。その有害物質を消去し、神経細胞を保護する点滴を外来・入院で行っています。